

JSCTS メールマガジン

2023年12月13日発行 第157号

◇ 日本CT検診学会 夏期セミナー2023を終えて	1
草野 涼	
◇ 第31回日本CT検診学会 学術集会のご案内	2
横地 隆	
◇ 日本CT検診学会 理事就任のご挨拶	3
牛尾哲敏	
◇ 日本CT検診学会名誉会員に推戴されて	3
和田真一	
◇ カンファレンス紹介	4
国立がん研究センター東病院 胸部X線読影会	
◇ スタッフ、その他募集	4
◇ 編集後記	5

日本CT検診学会 夏期セミナー2023を終えて

日本CT検診学会 夏期セミナー2023 代表世話人
株式会社日立製作所 日立健康管理センタ
草野 涼

日本CT検診学会 夏期セミナー2023（第26回読影セミナー、第16回技術セミナー、第5回大腸CTセミナー、第4回COPDセミナー、第3回CADセミナー）は、2023年7月22日（土）9：30～16：30に一橋講堂・中会議場（東京都千代田区）での現地開催に加え、2023年8月1日（火）～8月31日（木）の期間でオンデマンド配信を行いました。

第26回読影セミナー（世話人：畠山雅行（東京都結核予防会））では、まず読影演習として興味深い2症例を提示していただき、次に三浦溥太郎先生（横須賀市立うわまち病院呼吸器科）より「石綿関連疾患の所見・診断のポイント」をレクチャーいただきました。石綿は曝露より数十年経過して生じるものであり、CT検診においても現在なお遭遇します。今回のセミナーを通して、石綿関連疾患（石綿肺、胸膜プラーク、悪性中皮腫、肺がんなど）について、概要と画像の特徴についての知識を身に付けることができました。また、ご協力いただいた株式会社JVCケンウッド様には読影用モニターの貸与を頂き感謝申し上げます。

第5回大腸CTセミナー（世話人：満崎克彦（済生会熊本病院））では、鶴丸大介先生（九州大学大学院医学研究院臨床放射線分野）より「大腸CT第2波をBig waveに」と題し「質の高い大腸CT」を普及させることを目指して大腸CTの知識のブラッシュアップと大腸CTの後



に行われる大腸内視鏡の実際についても解説いただき、単にポリープ検出に留まらない大腸ポリープの取り扱いの全体を理解することができました。鶴丸先生は九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野のHP内で、大腸CTに関するメールマガジン「[CTCメルマガ](#)」を配信なさっています。この機会に閲覧・登録をされてCTCの知見を深めてみてください。

第3回CADセミナー〈ランチオン〉（世話人：草野涼（日立健康管理センタ））では、撮影・画像処理・検出・読影・記録というCT検診のそれぞれのシーンにおいて、IT・AI技術がどのように活用されているのかをトータルに考えました。私（草野）が簡単な導入としてCT検診の現場がIT・AI技術に期待していることを述べた後、富士フイルムヘルスケア株式会社 藤原怜子様より「富士フイルムによるCT検診に対する取り組み」としてそれぞれのシーンにおける技術についてご発表いただきました。ランチオン形式のざっくばらんなセミナーでしたので、率直な質疑応答ができたのも有意義でした。

第16回技術セミナー（世話人：牛尾哲敏（滋賀医科大学医学部附属病院））では、「各社CT装置の最新技術と検診CTへの応用～低線量CT検診にメリットをもたらす技術の紹介～」をテーマに、CT装置メーカー4社（GEヘルスケア・ジャパン株式会社 井上正隆 様、株式会社フィリップス・ジャパン 井谷健太 様、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 千葉雄高 様、シーメンスヘルスケア株式会社 松浦孝俊 様より、被ばく低減と画質改善に対する各社の先端技術についてご発表頂きました。被ばく低減と画質の担保は、CT検診の運用面で極めて重要な事項ですが、各社の特徴を対比して聞くことは他のセミナー・学会でも少なく、大変貴重なセミナーでした。CT検診を行っている、あるいは今後導入する予定の施設から、前述のCADセミナーおよび本技術セミナーの発表内容を知りたいという問い合わせも受けており、CT装置および周囲の機器への関心の高さが伺えます。

第4回COPDセミナー（世話人：草野 涼（日立健康管理センター））では、「COPDの総論とガイドライン6版のポイント」と題して、CT検診に従事する者が知っておきたいCOPDの診断・治療・予防・健診・リハビリテーション・看護介入・保健指導・社会的支援など幅広い内容についてのエッセンスを、本ガイドラインの作成委員会副委員長である川山智隆教授（久留米大学内科学講座）よりレクチャーいただきました。未治療のCOPD患者は500万人を超えていると推定されております。COPDと肺がんには強い関連がありますが、CT検診の

現場でCOPDを疑う受診者に対して適切な介入を行うことは、肺がんの抑制にもつながるものとなります。

日本CT検診学会夏期セミナー2023も充実した内容で、多くの方に聴講いただくことができて、代表世話人として大変嬉しく思いました。

夏期セミナーは、以下の単位を取得できます。（来年で降、変更の可能性あり）

・肺がんCT検診認定機構

認定医師および認定技師更新単位

認定医師：読影セミナー、COPDセミナーへの参加

.....5単位

認定技師：セミナーへの参加.....7単位

・日本大腸CT専門技師認定機構

大腸CT専門技師の資格更新に係る研修単位.....5単位

・日本X線CT専門技師認定機構

X線CT認定技師更新単位（Ⅱ-3 1日以上）.....6単位

1日の受講で種々の単位が取得でき、CT検診の業務に直結する知識を学ぶことのできる夏期セミナーにはメリットが満載です。次回の夏期セミナー2024は丸山雄一郎先生を代表世話人として、準備を行っており更に魅力的な企画になるものと今から期待が膨らみますので、どうぞ皆様お声掛けの上ご参集くださいますようお願い申し上げます。皆様方のご参加を心よりお待ちしております。

第31回日本CT検診学会 学術集会のご案内

第31回日本CT検診学会学術集会大会長
ミッドタウンクリニック名駅
横地 隆



第31回日本CT検診学会学術集会を2024年3月1日（金）・2日（土）、愛知県産業労働センター（ウインクあいち）におきまして開催させていただくことになりました。

本学術集会はこれまでに大きな飛躍を遂げて参りましたが、節目の30年を経過した時点で改めて過去を振り返り、そこから未来に向けての指針を示すべく、テーマを『温故知新（過去から学んで未来を見据える）—The Long and Winding Road—』としました。CT検診に関する様々な問題を討議し、国内外におけるCT検診の普及を目指すとともに、有益な情報を多角的な切り口で発信する場にしたいと考えております。

最終的なプログラムは学術集会のホームページで改めてご案内しますが、次のようなセッションを企画しております。

特別企画としてCT開発に携わってこられた先生によるご講演と学会の歴史に関するラウンドテーブルトーク、特別講演として外科の先生による「末梢小型肺がんの積極的縮小手術」、またシンポジウムは「CT検診による骨格筋評価の意義」、「低線量胸部CT検診における過去画像の蓄積からみた今後の展望」、「対策型低線量肺がん検診導入に向けて」、「CTCにおける被ばく線量低減の取り組み」、「低線量CT検診の撮影から読影までの円滑なフローを考える」といった、様々な分野で

構成しました。

現地開催とオンデマンドのハイブリッド方式で行いますが、懇親会も計画しておりますので、ぜひ名古屋まで足をお運びいただければと思います。

皆様のますますのご繁栄とご健勝を心よりお祈りすると共に、皆さまにお会いできることを楽しみにしております。

第31回日本CT検診学会学術集会

大会長：横地 隆（ミッドタウンクリニック名駅）

会 期：2024年3月1日（金）・2日（土）

会 場：ウインクあいち（愛知県産業労働センター）

〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38

ホームページ：<https://jscts31.jp>

運営事務局

株式会社インターグループ

〒450-0002 名古屋市中村区名駅2-38-2

オーキッドビル8F

TEL：052-581-3241 FAX：052-581-5585

E-mail：jscts31@intergroup.co.jp

日本CT検診学会 理事就任のご挨拶

滋賀医科大学医学部附属病院放射線部

牛尾哲敏

このたび、日本CT検診学会理事を拝命しました滋賀医大の牛尾です。これまでは技術部会の部員として、2021年度からは技術部会長として、CT検診学会に参画してまいりました。また以前より学術企画委員として、夏期セミナーや学術集会の企画・運営にも携わってまいりました。今年度からは理事という立場で、中島理事長をはじめ多くの理事の先生方と共に、日本CT検診学会の発展のために今まで以上に精進していく所存です。

日本においては、肺がんCT検診が任意型として盛んに行われております。検診という背景である以上、被ばく線量を限りなく低くすることが求められており、『低線量』が必須であることは言うまでもありません。ただ単に撮影線量を下げただけではなく、低被ばくでありな



がら診断能を担保した検査プロトコルが重要となります。今後益々増加すると思われる肺がんCT検診が、国民にとって安全で安心して受けられる検査として確立できるように、診療放射線技師の立場で積極的に啓発していきたいと思っております。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻をよろしく申し上げます。

日本CT検診学会名誉会員に推戴されて

新潟大学名誉教授

和田眞一

CT検診学会理事長より令和5年2月18日付けの名誉会員推戴状を拝受致しました。大変な名誉に存じますと共に、関係各位に御礼申し上げます。

ここで、医学物理学を専門とする小生が本学会に如何なる功労が成せたかを顧みるに、研究面では、肺がんCT検診の質的管理に重要なCADの技術的QAに関する研究を国際誌に掲載させていただきました。しかし、肺がんCT検診が我国においてすら、未だ普及の目途が立たない現状にあっては、労多くして功あったかと問えば、甚だ残念な現状と言わざるを得ません。

他に、特筆できるとすれば、2018年2月の第25回日本CT検診学会学術集会抄録集号（CT検診Vol.25,



No.1)、大会長巻頭頁に曾根脩輔著の論文：松本医師会報2017年10月号、長野医報（2016）648、649、650号（含：抜粋・補記）を特別許諾転載させていただく機会に恵まれたことと振り返ります。

曾根脩輔先生が、この分野で世界的著名な研究

者・臨床医であることの傍証となす論文がAnnals of Translational Medicine, 2021, 9 (9): 787 (Web of Science: IF: 3.6) に掲載されています。“The 100 most cited articles on lung cancer screening: a biometric analysis” がそれであり、ここに、100編の被引用数最多論文著者の第1位2名にSone Sの名が刻まれています。

CT検診 Vol.25 (1) 巻頭頁特別転載論文 曾根脩輔著

「肺がんを早期発見できる低X線曝射CT検診；20年余の普及活動から」、「肺がんの早期発見を可能にする低線量胸部CT検診の自治体での効率的実施にむけて」は、肺がん検診分野において世界トップのCitationに銘記された曾根先生の一連の研究論文を解説し、実証データを基に肺がん検診の今と今後に対する重要な意見を述べた、今なお、熟読いただきたい論説であることを強調したいと思います。

カンファレンス紹介

どなたでも自由に参加できるカンファレンスを紹介します。

これ以外にもご存じのカンファレンスがありましたらご紹介下さい。

国立がん研究センター東病院 胸部X線読影会

日 時：毎月（8月は休会）第2火曜日 午後7時30分より約2時間

場 所：千葉県柏市柏の葉6-5-1 国立がん研究センター柏キャンパス内

病院棟3階 カンファレンスルーム1 (2023年6月から会場を変更いたしました)

内 容：(前半) ご出席の先生から提示していただいた症例の読影・解説

(後半) 様々なテーマでの症例呈示・講演等

参加費：無料

備 考：詳細につきましてはHPにてご確認ください。

URL： <http://www.ncc.go.jp/jp/nccce/professional/seminar/dokuei.html>

連絡先：04-7133-1111 (代) 事務局 (院内PHS：91172) 中島

案内請求：mihonak2@east.ncc.go.jp まで。

スタッフ、その他募集

国立がん研究センター中央病院 肺診断グループ

当グループではチーフレジデント、レジデント、短期レジデント、厚労省計画研修医、対がん協会奨学医、他施設からの任意研修医を募集しております。気管支鏡検査・治療、胸部X線およびCT読影について指導致します。

興味のある方は下記にご連絡下さい。

国立がん研究センター中央病院 呼吸器内視鏡科 土田敬明 ttsuchid@ncc.go.jp

神奈川県立がんセンター 呼吸器グループ (呼吸器内科・呼吸器外科・病理診断科・放射線腫瘍科)

当グループではシニアレジデント、レジデント、他施設からの任意研修医等を募集しております。

当施設では、主に肺癌の診断 (画像診断、気管支鏡診断及び病理診断) から治療 (手術療法・放射線療法・化学療法・治験～臨床試験) に関して幅広く研修できることが特徴です。「がん薬物療法専門医」のための他科 (腫瘍内科・消化器科・乳腺外科等) 研修ローテーションも可能です。

興味のある方は下記にご連絡下さい。

神奈川県立がんセンター 呼吸器グループ kokyuki@kcch.jp

呼吸器内科 齋藤春洋

呼吸器外科 伊藤宏之

ホームページ： <http://kcch-tog.umin.jp/index.html>

募集期間：任意研修医は随時、レジデントおよびシニアレジデントは毎年10月に試験を行っております (詳細はホームページをご参照ください)。

編集後記

2024年3月1日(金)・2日(土)「愛知県産業労働センター(ウインクあいち)」にて、「第31回日本CT検診学会学術集会」が開催されます。本学術集会は1994年に前身の「胸部CT検診研究会」が開催されてから節目の30年であり、テーマは『温故知新(過去から学んで未来を見据える)―The Long and Winding Road―』となっております。本学会の黎明期を支えてきた先生方や、現在・未来を担う先生方による壇上でのディスカッションなども企画されており、まさにCT検診の歩みを知る貴重な機会です。

学術集会のメリットは、個々が専門的な知見を得ることだけでなく、情報交換や人脈作り、そして学会としての組織力の強化があると思います。年齢・性別・職種・経験の違う方が集う場所だからこそ、互いに刺激しあい相補的な効果がうまれることで、本学会はより円熟し存在感のある組織になってゆきます。

開催地の名古屋市は、食も観光も充実しています。食では、みそカツ・きしめん・手羽先など味噌や香辛料の効いたものがありますが、“モーニング”・“シロノワール”など全国的に話題のユニークな喫茶店も名古屋発祥です。観光では、土蔵造りの四間道や金のしゃちほこで有名な名古屋城などありますが、いずれも名古屋駅や会場のウインクあいちから徒歩圏内にありますので、散策好き・歴史好きの皆様には満足されること間違いありません。

名古屋は各地からのアクセスも良いですので、多くの方にとって利便性の良い場所だと思います。今回の学術集会は、当日現地開催／事後オンデマンド配信の形式となっておりますが、参加要項や取得できる各種単位などは、[学術集会HP](#)でご確認ください。現地・WEBともに会員・非会員を問わず聴講可能ですので、皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

広報委員長・学術企画委員 草野 涼

JSCTS メールマガジン

2023年12月13日発行 第157号

〒102-0072 千代田区飯田橋3-11-15 6F

(株)クバプロ内

NPO法人 日本CT検診学会

発行責任者：中島留美

編集発行：(株)クバプロ

TEL：03-3238-1689 FAX：03-3238-1837

E-mail：jscts-office@kuba.jp

ホームページ：http://www.jscts.org/
